

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 愛知教育大学附属岡崎小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒444-0072

愛知県岡崎市六供町八貫 1 5

E-mail aoi@op.aichi-edu.ac.jp

Website <http://www.op.aichi-edu.ac.jp/>

幼児児童生徒数 男子 288 名 女子 292 名 合計 580 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、相互理解の精神を育む共生教育を活動のテーマとして、ESD を生活のなかから課題を見つけ、多面的、総合的に考えながら解決し、自己を見つめていくものととらえ、ESD の実践を通して、多面的・総合的に考える力とコミュニケーションを行う力の育成を目標としている。

国際理解に係わる学習

3 年 英語活動

「きいてほしいな 日本の昔話

I will tell you about the traditional story of Japan. - Picture Story Show -」

ア ねらい

- ・外国の人に伝えたいことを理解してもらうために、英語の正しい発音やイントネーションを身につけ、リズムよくスムーズな伝え方をしようとする子どもにしたい。
- ・日本の昔話についての理解を深め、仲間と協力しながら日本文化のよさを外国の人に伝えていく活動を通して、日本語と英語の文法の違いに気づくことができる子どもにしたい。

イ 内容

1 学期に交流した外国人留学生が、3 年 1 学級の子どもたちともう一度遊びたいと思っていることを知らせた。その後、DVD とセットの絵本に出会わせた。絵本を手にした子どもたちは、日本の昔話を英語の紙芝居にすることで、外国の人に楽しんでもらい、日本の昔話を世界に広めたいという思いをもった。ネイティブの発音に近づけるため、再度、DVD を聴いて、発音を確かめたり、口の使い方を ALT と練習したりした。子どもたちが追究してきた伝え方をすれ

ば、外国の人に日本の昔話を理解してもらえると感じ始めたときに、実際に外国人留学生に日本の昔話を英語で紙芝居する場を設定した。交流後、うまくいったこととうまくいかなかったことを伝え合うことで相手に楽しんでもらうためには、強弱をつけてリズムよく伝えることが有効であるという新しい視点に気づき、積極的に外国の人と交流しようとする姿が見られた。



防災に係わる学習

5年家庭科

「家族を守りたい 願いを込めて作るよ 安心できる非常持ち出しバッグ」

ア ねらい

- ・家族のためにできることを考え、家族のための非常持ち出しバッグを作ることで、人のためにもものを作る楽しさを感じ、機能性や耐久性、手作りのあたたかさが伝わるように工夫して製作したり、自分で作ったものを大切にしたりすることができる子どもにしたい。
- ・家族のための防災バッグ作りを通して、自分で手作りすることや、手作りされたものに対する見方や考え方、感じ方を広げることができる子どもにしたい。

イ 内容

非常持ち出しバッグに出会った子どもたちは、防災学習で高められた準備の意識と家庭科で取り組んだ巾着袋作りの楽しかった意識が重なり「家族のために非常持ち出しバッグを作ってみよう」と思うようになった。そこで子どもたちは、家族のことを考えながら、バッグの大きさや使いやすさなどについて、バッグ作りの追究を始めた。バッグができ、必要な物を入れた状態で背負い、本当に安心できるバッグになっているか考えをもったところがかかわり合いを行った。仲間の工夫を試し、安心の視点として丈夫にするための工夫も大切であることを知り、今まで気づいていなかった新たな安心の視点に気づいた。自分が納得できる非常持ち出しバッグができたところで、家ではどこに置くとよいか考え、家族に見てもらい、家族に感想をもらうことで、防災に向けてよりよい準備をしていこうとする姿が見られた。



国際理解に係わる活動

ボールステイト大学バリス校との交流（受け入れ）

ア ねらい

- ・バリス校児童の交流訪問を通して、異文化理解を深める子どもにしたい。
- ・小さな親善大使として、お互いの文化を学び伝え合い、両校の友好を深め、交流を推進する役割を担っていける子どもにしたい。

イ 内容

本校が交流事業を行っているバリス校は、愛知教育大学の姉妹提携しているアメリカインディアナ州にあるボールステイト大学の附属学校である。10回目となる今回の受け入れにも、多くの家庭が希望した。そのなかから抽選で4～6年生の10家庭が交流の小さな親善大使として選ばれた。受け入れの日、SNSなどでやりとりをしていたが、どの子どもも期待と不安を胸に抱いていた。バスから降りてきたバリス児童に練習した英語を使って自己紹介をし、HFであることを伝えて自宅へと向かった。交流期間は、バリス児童には1年生から6年生までの全学級の授業に参加してもらった。算数の授業を日本語で受けたり、



家庭科の授業でおにぎりを作って試食したりと日本の文化を伝えながら、なんとか自分の考えや思いを伝えようと四苦八苦する姿、言葉の壁を越え共に夢中になって遊ぶ姿など日に日に積極的になる様子が見られた。バリス児童も、日本語で話しかけてくれることが増え、お互いにもっと知りたいという思いをもち、自然にふれあうことができるようになった。両校の友情がいつそう深まり、次年度の訪米につながる交流となった。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

自作教材のため、特になし。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、ESD を生活のなかから課題を見つけ、多面的、総合的に考えながら解決し、自己を見つめていくものととらえているため、子どもの問題意識を軸にした問題解決学習を展開している。各單元には、子どもの考えの深まりに応じてかわり合いを位置付けている。そのため、自分の考えと仲間の考えの共通点や相違点を探るなかで、多面的・総合的に考える力が育まれている。また同時に、自分の考えを仲間に伝えるために発表の仕方を試行錯誤するため、コミュニケーションを行う力も高めている。各教科・領域において、この問題解決学習に取り組んでいるため、定期的に授業協議会を行い、子どもの成長をとらえ、大学の先生の指導・助言をいただきながら指導改善にあたっている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校では、特色ある教育活動に共生教育と国際理解教育を位置づけ、教務主任が中心となって立案・運営をすることによって組織的・継続的に活動に取り組めるようになっていく。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本校では、11月に、全職員・全児童・全保護者を対象とした学校評価アンケートに取り組んでいる。アンケート内容は、学校生活における満足度から子どもの規範意識など全20項目を4段階で評価するものになっている。「子どもの自主性や主体性について」の項目では、職員と保護者の評価は高かったものの、子どもの評価はやや低いことがわかった。活動によって身に付いた力を子ども自身が実感できるような場の設定も考えていくことが必要である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

国際交流や防災に係わる学習については、本校の研究協議会にて、地域の先生方をはじめ、多くの方にご意見をいただいている。また、今年度は、研究の成果として本も出版している。

国際交流に係わる活動については、本校のHP や学年だより等で校外や保護者に発信している。地域のロータリークラブからも支援をいただくことができ、今後も続けてほしいという声があがっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

本校は、附属学校ということもあり、国際交流に係わる活動では、大学の学生に通訳ボランティアの募集をお願いしている。本校の子どもたちにとっては、交流の手助けとなり、学生にとっては、身に付けたスキルを試す場となり、双方にとって有益な取り組みとなっている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

姉妹提携をしているアメリカインディアナ州にあるボールステイト大学の附属学校であるバリス校がユネスコスクールの加盟校であるかは確認していないが、次年度、訪米するにあたって、事前に確認しつつ、交流期間だけでなく年間を通じた交流ができるようにネットワークの形成を図りたいと考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

多面的・総合的に考える力の育成をめざしていることから、全国学力・学習調査において、本校児童の基礎的、基本的な知識・技能と、それらを活用する力は全国平均に比べて高い。特にB問題については、全ての項目において、全国平均を上回っている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度についても、相互理解の精神を育む「共生教育」を活動のテーマとして、生活のなかから課題を見つけ、多面的、総合的に考えながら解決し、自己を見つけていく子どもの育成をめざしていく。

また、附属岡崎中学校・附属特別支援学校との連携を強化し、授業での交流、農園での共同作業、放課の自由交流、学校行事での交流を考えている。教職員については、研修や研究で交流を行う。保護者は、学校行事や父母教師会での交流を行う。